

「牧師室」(2016年1月3日)

右の、母親が子どもを抱いている絵は、1960年代初期に書かれたもので、当時のカレンダーに印刷され、わたしの友は、毎日壁に掛けられたこの絵を見ていたと言っています。壁に写真等を掛けることの少なかった時代でした。この絵の作者は、ケーテ・コルヴィッツと言うドイツの女流画家・彫刻家で、現在でもその名を冠した美術館が幾つもあり展示会も行われています。1945年ドイツ敗戦の数日前に78歳で亡くなりました。彼女は、人間の貧しさや、戦争の悲惨さを特に描いたと言われています。



何と言う「喜び」と「守られている」と言う感情が伝わって来ることでしょうか。自分たちも、子どもたちをこのように守ってあげたいと言う友人の願いは、地上では実現しませんでした。息子の一人が早世したからです。自分たちの力では守ってやる事が出来なかったことを思い、墓石には、「神に守られて」と言う言葉を刻んだそうです。今年2016年の『日々の聖句』はイザヤ書66章13節aから取られています。「母がその子を慰めるように、わたしはあなたたちを慰める」です。母としてこの子を守ってあげたい、喜びに満ちた環境の中でこの子を育ててあげたいという願い・憧憬は、どの母親・両親も持っています。しかし、地上ではその願いが実現しないと言う厳しい現実があるのです。

「神に守られて」と言う信仰が欠かせません。

先週(2015年12月27日)の礼拝出席者数。

大人の礼拝 男子11 女子35 計46。 子ども礼拝 女子1名。